

# 競 技 注 意 事 項

## 1. 競技規則について

本大会は、2019年度（財）日本陸上競技連盟競技規則および本大会注意事項により行う。

## 2. 練習について

- (1) 練習は第2陸上競技場において競技役員の指定する場所と時間帯で行う。
- (2) 投てきおよび跳躍種目は、競技役員の指示により主競技場で競技を行う。

## 3. 招集について

- (1) 招集所は第2競技場用器具庫内に設ける。必ずコールを受けてから出場すること。
- (2) 招集開始時刻と完了時刻は、当該種目の競技開始時刻を基準に、次の通りとする。

	招集開始時刻	招集完了時刻
トラック種目	30分前	20分前
フィールド種目	40分前	30分前

### (3) 招集の手順

- ① 競技者は、招集開始時刻に招集所に掲示してある出場競技者一覧表に、本人または代理人がチェック（自分のナンバーを○で囲む）をする。
- ② 代理人による最終点呼は認めない。ただし、2種目以上を同時に兼ねて出場する競技者は、招集開始時刻までに本人または代理人が競技者係に申し出ておくこと。
- ③ リレー種目においては、招集開始時刻の60分前までに所定のオーダー用紙に記入し、招集所の競技者係に提出する。(1チームにつき2部提出)
- (4) 招集完了時刻に遅れた競技者は、当該種目を棄権したものとみなして処理をする。
- (5) 競技場へは係員の誘導、指示により入場する。

## 4. 競技について

- (1) 短距離走では、競技者の安全のためフィニッシュライン通過後も自分のレーン（曲走路）を走ること。
- (2) トラック競技でレーンを使用する場合は、欠場者のレーンはそのまま空けて行う。出場競技者が8名までのときは、第1レーンを空けて競技を行う。
- (3) 県選手選考会では、男女トラック種目の予選はすべてタイムレースとし、上位8名が決勝に進出する。（8位が同タイムで2名いる場合は9名が決勝に進出し、3名以上いる場合は抽選で2名を決め9名が決勝に進出する。）
- (4) レーンで行うリレー競技の競技者は、ダッシュマークとして自分のレーンに最大50mm×400mmの粘着テープによって印を1カ所付けても良い。その印は各自チームの競技者が必ず取り除くこと。
- (5) 男女混合4×100mリレーは、男女2名ずつが出場する。走順については特に規定はない。リレー競争におけるテイクオーバーゾーンは基準点から手前20m後ろ10mの合計30mとする。ゾーン外から走り出してはならず、ゾーンの中でスタートしなければならない。
- (6) フィールド競技では、2ピット必要と判断した場合、2つの競技場所で行う場合がある。
- (7) コンバインドAのジャベリックボール投はやり投げピットで行い、試技は2回。助走距離は15m以内とする。
- (8) コンバインドAの走高跳（はさみ跳び）は、同じ高さでの試技は2回。マットへの着地は足裏からとし、背、腰からの着地は無効試技とする。助走や跳躍の際、主催者が承認したものを置くことができる。
- (9) コンバインドBの走幅跳の試技は1人2回。主催者が提供したマーカーを助走路外におくことができる。審判長の判断によりパスラインを設けることがある。
- (10) スタートはクラウチングスタートを原則とするが、スタンディングスタートも認める。スタートは、同じ競技者が2回の不正スタートをしたとき、その競技者を失格とする。
- (11) ナンバーは大会本部から用意されたものに県登録ナンバーを記入したものを使用する。

## 5. 助力について

競技者に対する助力は、競技規則第144条に従う。競技場内で助力を与えたり、受けたりしている競技者は審判長によって警告され、同様の行為を繰り返すとその競技者は失格になることを勧告される。フィールド競技に関しては競技役員の許可のもとスタンド席のコーチとコミュニケーションをとることができるが（競技区域内から）、競技役員の指示に従わない場合は助力を受けたとみなす。

## 6. 競技用具について

競技に使用する用器具は、すべて主催者が用意したものを使用しなければならない。

## 7. 走高跳のバーの上げ方について

種目	練習	1	2	3	
走高跳 (男子)	1. 0 5	1. 1 0	1. 1 5	1. 2 0	1 m 3 5 までは、5 c m ごと それ以後は 3 c m ごと
走高跳 (女子)	1. 0 0	1. 0 5	1. 1 0	1. 1 5	1 m 2 5 までは、5 c m ごと それ以後は 3 c m ごと

※天候などの条件により審判長の判断により変更する場合がある。

## 8. 表彰について

優勝者にはメダルを授与し、1位～3位までは表彰を行う。  
短距離記録会については、表彰は行わない（※賞状はありません）。

## 9. 全国大会について

(1) 各種目1位の選手は全国大会の出場権を得る。ただし、リレーと個人種目の両方で出場を得た場合は、リレーが優先するので、個人種目は次点の選手が出場権を得ることになる。

この場合のリレー選手とは、プログラム記載の該当リレーチームの選手すべての選手を指し、決勝に出場した4名のみを指すものではない。

※リレーの決勝に出場しなくとも、当大会の申込書のリレーチームに記載されているすべての選手は、個人で優勝した場合でも、リレー優先となる。申込締切後の選手入れ替えは、認めない。

(2) 全国大会当日（8/9（金） 前日練習 8/10（土）大会本番）に行われる全ての行事日程に参加出来ない選手は、全国大会出場権を認めない。（日本陸上競技連盟通達）

(3) 全競技終了後、本部にて全国大会当日までの打合せ会を行うので、監督及び選手、保護者はかならず集合すること。当日のうちに申し込み書類等の記入を行うので、厳守すること。

## 10. 一般注意事項

(1) 記録は正面スタンド2Fの記録掲示場所に掲示する。

(2) 大会期間中、競技場で発生した傷害や疾病は応急措置を行うが、その後の責任は負わない。

(3) 記録証を希望する競技者は、記録証係に記録証交付願および交付料（500円）を添えて申し込む。（記録証交付願は正面スタンド1F受付に用意する）

(4) プログラムは受付にて、一部につき500円で販売する。

(5) 競技場は常に清潔保持に努め、紙くずなどは各自で持ち帰り処分すること。

(6) 更衣室は第2競技場の男子・女子更衣室を利用することができる。ただし、貴重品は各自で保管すること。紛失、盗難に関して主催者側は一切の責任を負わない。

(7) 大会期間中に届けられた物品（遺失物）については、一時的に大会本部にて保管する。大会終了後はアミノバリューホール1Fの管理事務室に問い合わせること。

(8) 駐車場については、県陸協HP等に掲載されている場所を利用し、近隣及び他の車両の迷惑にならないように注意すること。

(9) 競技の結果または競技実施に関する抗議は、その種目の結果の正式発表後30分以内に行わなければならない。抗議に関連する種目の同じラウンドで競技している競技者またはチームを代表する者に限りすることができる。競技規則第146条に従って、競技者自身またはチームを公式に代表する者が審判長（本部席の担当総務員に申し出る）に対して口頭で行い指定された控え室で待機する。